



第65号

大分市社会福祉協議会 保育部会 広報委員会

ごあいさつ

大分市社会福祉協議会 会長 右田 芳明



大分市社会福祉協議会保育部会の皆様におかれましては、平素から、未来をつくる子どもたちのため、多大なご尽力を賜っており、心から感謝申し上げます。

ご案内のとおり、世界の人口が爆発的に増加してきているなかで、我が国におきましては、少子高齢化が急速に進み、人口減少社会が到来しています。十五歳から六十五歳までの「生産年齢人口」は、平成七年の約八千七百万人をピークに減少に転じ、「総人口」も平成二十年の約一億二千八百万人から減少しています。また、十四歳以下の推計人口も、昭和五十七年から減少が続いており、少子化に歯止めがかからない実態があります。

社会経済の成長力が低下するおそれのある状況となっています。

さらに、将来推計では、二千六十年には、総人口は約八千六百万人、生産年齢人口は約四千四百万人にまで減少することが見込まれています。

この少子化・人口減少の要因は、出生率の低下にあるといわれていますが、一人の女性が一生のうちに出産する子どもの平均数を示す「合計特殊出生率」は、昭和二十二年の四・五四をピークに減少傾向となっています。

昭和四十九年からは人口を維持できるとされる「人口置換水準・二・〇七」を割り込み、平成二十九年には一・四三にまで低下し、今後とも少子化の進行が見込まれています。

こうした少子化・人口減少の克服には、まずは、結婚を実現するために、若者の雇用や所得を向上させ、出会いの場を拡充することが必要であり、希望どおりの出産・子育てを実現するためには、保育や育児不安の改善、待機児童の解消、さらには仕事と

育児の両立ができる環境が求められています。

このように、少子化・人口減少という、社会の構造的な課題は、雇用や保育をはじめ様々な分野で、国を挙げて取り組まなければ、到底解決できるものではありません。

国は、本年十月から幼児教育・保育を無償化するなど、未来を担う子どもたち、子育て世代に、大胆に投資するとしています。受け皿となる施設の拡充や、保育士の確保と処遇の改善、さらには保育環境の最低基準など整理しなければならぬ多くの課題があるのが現状でもございます。

昨年、保育所保育指針が改定され、保育士には、その職務について、より高い倫理観と専門性が求められることになりましたが、まさに保育の質の向上は、保育士の皆さんの双肩にかかっているものと思います。

市社協といたしましては、今後とも、保育部会の皆様と力を合わせ、未来をつくる子どもたちのため、量と質の両面から、子育て環境の整備に向け取り組んでまいります。結びにありますが、保育部会のご発展と、会員皆様のご健勝・ご活躍を心から祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

そのくしゃみ・・・花粉症かも??

花粉症の主な症状は、くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみです。子どもの場合はくしゃみがあまり出ずに鼻づまりが多い傾向にあります。これは鼻が小さいからつまりやすく、つまると花粉が入ってこない事からくしゃみは出にくいという事が原因になっています。

どんな症状?風邪との症状の違いは??

Table comparing symptoms of pollen allergy and cold. Columns include Heat, Runny nose, Sneezing, Stuffy nose, Sore throat, Cough, and Itchy eyes. Rows compare Pollen allergy and Cold.

花粉症を予防するために...

- 花粉の吸入や飛散を防ぐためにマスクをつけましょう。
■帰宅した時は家中に花粉を持ち込まないように玄関でよく払いましょう。
■石鹸を使って15秒以上手洗いし、うがいもこまめに行いましょう。
■花粉は重いので下に溜まります。子どもは背が低く、舞い上がった花粉を吸い込みやすいのでこまめに掃除をしましょう。
■栄養・睡眠を十分にとり、規則正しい生活を心がけましょう。

子どもの花粉症は気管支ぜんそくやアトピー性皮膚炎などの他のアレルギー疾患との関わりがあることもあります。早い段階で診てもらいましょう。

おおいた保育園(所)・こども園めぐり 24

それぞれの特色を持って取り組んでいる子ども達の姿や園の紹介を毎回していきたいと思ひます。

府内保育園



府内保育園は、大分市南部に位置し、昭和55年に開設した保育園で、現在99名の園児が元気に過ごしています。

- <心身ともに健康な からだ育て>
<人とのかかわりを通して思いやりを育てるこころ育て>
<豊かな感性と何事にも進んで取り組む 意欲育て>
を目標に、一人ひとりを認めながら寄り添う保育を目指しております。

園庭の桜の木は本園のシンボルであり、四季を通じ、子どもたちを優しく包んでくれています。また、地域の高齢者の方々と七夕や芋掘り、もちつき等の交流行事では、地域の方々と絆が深まる行事となっております。さらに保護者の方々と連携を図りながら保育を進めていくことを大切にしています。

日々成長している子ども達。鬼ごっこの遊び方も一段と深まってきました。子ども同士が共に感動したり、気づきを発見する力を培っていきたく思います。



旦の原保育園



当園は昭和49年に旦野原の地に認可外保育園として開園。平成5年に認可保育園となり、平成12年には現在地高江ニュータウンに移転。その後の新園舎増築とともに平成28年からは幼保連携型認定こども園として新たにスタートしました。

開園以来「ヒトが人間になる土台」が育つ最も大事な時期を人類の進化の歴史から学びながら、社会環境の変化とともに子どもの「こころとからだ」の育ちを考え「芽はゆっくり、根はしっかり」を保育方針に、しなやかな心身のバランスと自分の身は自分で守れるよう保育に取り組んでおります。

隣地の里山も園庭として森の中でも遊べるよう整備をおこない、現在は総敷地面積が1万㎡を超えて2つの園舎と4つの園庭を有していますが、常時生活する部分の敷地は2割ほどのため、そこで園舎園庭のあり方を見直し、保護者の協力のもと遊具等を手作りで製作するなど、狭いながらも自分で選び夢中で遊び学べる生活環境を構築しています。

